

2005年10月10日 人民網日本語版

### 中国の有人宇宙飛行「宇宙ステーションへの第1歩」

中国の有人宇宙飛行計画の総責任者・王永志氏は、新華社の取材に対し、中国の有人宇宙飛行は、近く打上げを予定している有人宇宙船「神舟6号」から計画の第2段階に進み、宇宙飛行士による宇宙科学実験を本格的に行うことを明らかにした。中国は神舟6号による有人宇宙飛行計画の第2段階と、それに続く第3段階で、宇宙飛行士の宇宙遊泳、宇宙船と宇宙モジュールのドッキング、宇宙実験室の打上げ、半永久的な宇宙実験室の構築などをを目指す。中国はすでに無人月探査計画「嫦娥プロジェクト」（「嫦娥」は月に住む伝説の仙女）に着手している。また、第2回有人宇宙飛行となる「神舟6号」打上げもまもなく行われる。専門家は、今回の打上げ

が成功すれば、次目標は、宇宙飛行士によるモジュール外の宇宙遊泳になる、とみている。

中国の宇宙飛行専門家はすでに、有人宇宙飛行実現に続いて、宇宙実験室建設や、半永久的な宇宙ステーションを含む「地上宇宙間総合ネットワーク」構築などを進める計画を立てつつある。さらに、宇宙ステーションを、宇宙飛行基地に発展させるという。

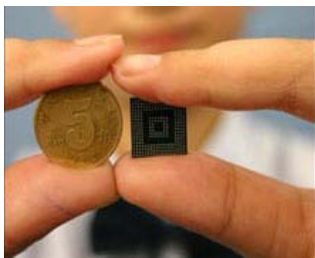
王永志氏は「宇宙は人類にとって、重要な価値を持った資源だ。真空状態や、強い電磁波、無重力など、地球上で再現しにくい環境は、科学研究発展にとって理想的実験場所となる。有人宇宙飛行発展は、国民経済発展に寄与する」と話した。（編集CS）

2005年10月10日 人民網日本語版

### 国産3G通信用の小型チップを開発 重慶

中国独自の第3世代(3G)移動通信規格「TD-SCDMA」向けの新型ベースバンドチップ「通芯1号」がこのほど、重慶市で誕生。同市政府が9日に開いた記者会見で明らかにした。同チップには、0.13ミクロンプロセス技術が採用されている。

「通芯1号」は、郵電学院が出資する信科株式会社が設計開発を担当、完全な中国独自開発製品。「通芯1号」誕生は、中国の3G携帯コアチップ中核技術が世界水準に達したことを示している。（編集SN）



2005年10月8日 人民網日本語版

### エアバスのA350型開発、中国企業が参加へ

欧州の航空機メーカー・エアバスは7日、世界的リスクをともに負担する同社の協力パートナーの一部である中国企業が、同社の新型機A350型開発プロジェクトに参加することを明らかにした。プロジェクトは同日発足し、中国企業は設計製造のうち5%を担当。

中国が参与するA350型設計作業は、エアバス(北京)工程技術センターが担当する。設計した部品は中国企業が中国で製造する。エアバスは現在、設計製造の具体的な内容について、中国の航空機関連メーカーと積極的に協議を進めている。（編集SN）

10月10日15時4分更新 読売新聞

### 小型超音速機、飛行実験に成功…豪州で宇宙機構

次世代の超音速旅客機の開発を目指しているJAXAは10日午前7時6分(日本時間同6時36分)、オーストラリア南部のウーメラ実験場で、小型無人超音速実験機の2度目の飛行実験を実施。

実験は、コンピュータで設計した実験機(全長11.5メートル、幅4.7m、重さ2トン)の超音速機体性能を検証するのが目的。

2002年7月に行った初回実験は、装置誤作動で、実験機が打上

げ直後に墜落し失敗に終わったが、今回は、ロケットによる実験機打上げから、ロケット切離し後のマッハ2滑空飛行、機体回収までの全過程を無事終えた。

同機構は「実験は成功した。技術開発の大きな一歩を記した」と発表。今後、機体にかかった風圧や温度などのデータを詳しく分析し、超音速旅客機設計技術に生かしていく。

10月10日15時0分更新 時事通信

### 小型超音速機の再実験成功＝ロケットで打上げ、滑空－3年ぶり豪州で・宇宙機構

JAXAは、オーストラリア南部のウーメラ実験場で10日午前6時36分(現地時間同7時6分)、エンジンなしの小型無人超音速実験機をロケットで打上げ、マッハ2で滑空させる実験を行い、成功。

宇宙機構の前身の航空宇宙技術研究所が2002年7月に実施した際は、実験機誘導制御装置の設計ミスで、ロケット発射直後に脱落して失敗。3年ぶりの再挑戦だった。

宇宙機構の坂田公夫理事は、現地と東京事務所を電話で結んだ記者会見で「次世代超音速旅客機(SST)実現にはあと15年ぐらい必要。次はジェットエンジンを使う実験などを検討したい」と話した。実験機は長さ11.5m、重さ2トン。ロケットで高度約19kmに達した後、ロケットを分離して高マッハ2で滑空。約15分後にパラシュートで着地した。

10月10日14時27分更新 毎日新聞

### <超音速旅客機>無人機の飛行実験が成功 JAXA

JAXAは10日、オーストラリアで実施した次世代超音速旅客機(SST)の無人小型実験機飛行実験が成功したと発表。02年7月の初実験は失敗したが、3年ぶりの挑戦となった今回はほぼ予定通り飛行。

実験機は全長11.5m、主翼の幅が4.7m。午前7時6分(日本時間同6時36分)、実験機はオーストラリア南部のウーメラ実験場から、ロケットに乗せて打上げられ、72秒後に高度約19キロで分離した。その後、マッハ2(時速約2400キロ)でグライダーのように滑空し、空気抵抗や飛行性能に関する約800種のデータを取得。飛行時間は打上げから15分22秒だった。

02年の実験では、発射直後に実験機がロケットから脱落した。ロケットの電気部品設計ミスで回路がショートし、誤った分離信号が出たことが原因だった。JAXAは信頼性向上のため、ロケットだけではな

く実験機も含む約100項目の改修を実施した。

旅客機用の超音速機としては、英仏が開発したコンコルド(03年引退)が知られる。しかし、コンコルドは爆音が激しいうえに燃費が悪く、商用としては失敗作とされた。

SSTは低騒音、燃費の改善、安全性の確保を目指す。速度はマッハ2以上を目指し、日本とニューヨーク間を約6時間で結ぶ。乗客数はコンコルドの3倍(300人)、航続距離は約2倍に増やす。また大気汚染につながる窒素酸化物排出量は4分の1、騒音はジャンボジェット並みに抑えるという。

日仏の航空宇宙工業会は今年6月、SST共同研究で合意した。JAXAは、今回の実験機が得たデータを今後のSSTの設計に生かすとともに、ジェットエンジンを使った実験機や低騒音の実験機による新たな技術開発を目指す。【永山悦子】

10月9日22時33分更新 毎日新聞

### <中国>有人宇宙飛行船打上げ 12日にTV生中継

【香港・成沢健一】9日付の中国系香港紙「文匯報」は、中国で2回目となる有人宇宙飛行船「神舟6号」の打上げを中央テレビが12日に生中継する準備を進めていると報じた。打上げ時間については、これまで13日午前11時(日本時間同正午)とされてきたが、1日早い12日午前11時が予定されているという。報道によると、中継は打上げの1時間前から始まり、地球への帰還まで計54時間に及ぶ予

定。打上げが失敗した場合でも中継は続けられる可能性が高いという。実況中継としては97年の香港返還を上回る記録的長さで、視聴者数は5億人と見込んでいる。

初の有人飛行となった「神舟5号」打上げの際には、生中継はされなかった。

10月9日18時10分更新 読売新聞

### 「神舟6号」12日に発射、中国2度目の有人宇宙飛行

【香港＝吉田健一】9日付の中国系香港紙「文匯報」は、中国の有人宇宙船「神舟6号」が12日午前11時(日本時間同日正午)に打上げられる予定と報じた。

中国の有人宇宙飛行は、2003年10月の「神舟5号」に次いで2回目。打上げ1時間前から、中国中央テレビが実況中継予定。

10月9日13時38分更新 共同通信

## 神舟6号、12日打上げか 中国

【香港9日共同】9日付の中国系香港紙、文匯報は、中国で2回目となる有人宇宙船「神舟6号」が、天候が良好なら12日午前11時（日本時間同日正午）打上げ予定と報じた。

打上げ日時について中国当局はこれまで正式発表していない。

別の香港紙などは13日予定と報じていた。

前回の「神舟5号」では打上げの際に実況中継がなかったが、文匯報によると、今回は打上げの瞬間も中国中央テレビなどが実況中継予定。

10月9日 19時39分更新 毎日新聞

## <ロシア>調査衛星の打上げ失敗 欧州宇宙機関

タス通信などによると、欧州宇宙機関は8日、地球温暖化調査衛星「クリオサット」をロシア北部プレセツク宇宙基地から打上げた。だが、ロシア製打上げロケット「ロコット」が推進装置切離しに失敗、衛

星はロケット本体と共に北極近辺海域に墜落。ロシア宇宙開発当局者は、原因究明までロケットの使用停止を表明。

10月9日 2時56分更新 産経新聞

## 中国 宇宙でも対日攻勢 アジア各国囲い込み

日本と中国が東シナ海の石油ガス田開発だけでなく、宇宙でも激しいつばぜり合いを演じている。宇宙平和利用をめぐり、アジア地域で衛星の防災情報提供が日本主導で計画されているのに対し、中国が別の多国間枠組み構築を目指し参加国囲い込みを活発にしている。二度目の有人宇宙飛行に挑む中国に比べ、出遅れ感が否めない日本の宇宙戦略。衛星データ解析ソフトなど関連産業をめぐる思惑も競争激化の背景にある。（杉本康士）

日本の計画は、独立行政法人「宇宙航空研究開発機構」（JAXA）とアジア・太平洋地域の二十五カ国が加盟するアジア防災センター（ADRC）が、災害発生現場を衛星で撮影し、アジア各国の防災機関に無料で画像提供する防災危機管理システム。来年七月にも開始する。発展途上国の防災に役立てるのが目的。

具体的には、JAXAが来月にも鹿児島県の種子島からH2Aロケットで陸域観測技術衛星（ALOS）を打上げ、ALOSで撮影した画像をJAXA経由で各国防災機関に配信する。

衛星解像度は最大 2.5m。衛星や災害把握用の航空機を持たない国でも、地震による道路の被災状況や洪水による浸水状況などを確認でき、救助活動に役立てることができる。すでに七カ国が非公式にシステムへ参加の意向を伝えている。

今回の計画には、日本のアジア諸国に対する防災面での国際貢献という意義だけでなく、ライバル中国を横目に、将来の「宇宙ビジネス」で主導権を握る“先行投資”という思惑も見え隠れする。

アジアにおける宇宙利用の多国間枠組みとしては、日本の提唱で平成四年に発足したアジア太平洋地域宇宙機関会議（APRSAF）

がある。中国はこれとは別に、アジア太平洋宇宙協力機構（APSCO）発足を目指している。

APRSAFが情報交換の場と位置づけられる一方、APSCOは、参加国と共同で衛星の開発・打上げを行い、画像などの衛星データを共有するといった、より戦略的構想を持つ。

今年六月には中国、タイ、パキスタン、ペルーが中国のAPSCO加盟に向けた国内手続を終え、加盟国はさらに拡大見込み。

中国は今月中旬にも、2003年10月以来二度目となる有人宇宙船「神舟6号」を打上げる見通し。こうした精力的動きに、宇宙開発に携わる日本国内専門家は政治・経済両面から警戒感を強めている。

JAXAの松浦直人主任開発部員は「中国は宇宙分野でも覇権主義的傾向があり、参加国の囲い込みを図っている」と指摘。また、経済面でもAPSCO参加国が使用する衛星データや解析ソフトは原則中国製となるため、域内関連産業市場で中国企業にとって圧倒的有利になりかねないという。

国内関係者は、今回の日本の計画が中国の動きへの対抗策であることを否定しておらず、日中間の激しいデッドヒートはまだまだ続きそうだ。

10月9日 17時20分更新 共同通信

## 全国18基で運用開始 地対空誘導弾で防衛庁

弾道ミサイルを迎撃する防衛庁のミサイル防衛（MD）計画で、航

空自衛隊に配備する地対空誘導弾パトリオット（PAC3）の導入計

画の全容が9日、明らかになった。

既に選定を終えた埼玉、岐阜、福岡各県の基地に本部を置く高射群に加え、浜松基地(静岡県)の教育訓練部隊にも計4基を配備し、2010年度までに予備を含む18基で運用を開始。

さらに、11年度以降に北海道、青森、沖縄各県の高射群への追加導入を検討する方針で、実現すれば合計32基配備となる見通し。

PAC3は、発射された弾道ミサイルを海自のイージス艦発射型迎撃ミサイルで破壊できなかった場合に、地上から発射し落下直前に迎撃するMD計画の柱のひとつ。

10月9日 23時33分更新 読売新聞

### 核兵器、在韓米軍が91年まで16か所に配置

【ソウル＝平野真一】韓国与党・ウリ党の崔星(チェ・ソン)議員は9日、在韓米軍が1958年から91年まで、韓国内16か所に11種類の核兵器を配置していたと述べた。

最近公開された米国務省、国防総省文書で明らかになったという。同議員によれば、核兵器はソウルや江原道(カンウォンド)春川(チュンチョン)などの米軍基地6か所に配置されていたほか、釜山(プ

サン)や京畿道(キョンギド)議政府(ウイジョンブ)など10か所に配置されていたと推定され、その種類は核爆弾、地对地ミサイル、核地雷など多岐にわたるといふ。

これらの核兵器は、91年11月5日に当時のジョージ・ブッシュ米大統領が承認した「国家安保命令64号」によって米本土に撤収されたという。

2005年10月10日 15:43 SpaceWar Express - October 10, 2005

### CHIP TECH

#### 無線の世界: スパイチップはプライバシーを侵害?

#### - Wireless World: Spychips Invading Privacy?

<http://www.spacewar.com/news/chip-tech-05zm.html>

Chicago (UPI) Oct 7, 2005 - Chips that track boxes on trucks and ships soon may be sophisticated enough to monitor every move of

consumers, a controversial new book claims.

### MILITARY COMMUNICATIONS

#### ネットワーク・セントリック・コマンドアンドコントロール運用の将来コンセプト

#### - Future Concepts For Network-Centric Command And Control Operations

<http://www.spacewar.com/news/milspace-comms-05zzzp.html>

Albuquerque NM (SPX) Oct 10, 2005 - Researchers are investigating future concepts for **network-centric command and**

**control operations** using intelligent, autonomous data link management to pass real-time information over ad hoc networks.

#### 次世代信号圧縮と解凍/伸張変換

#### - Next-Generation Signal Compression And Reconstruction Transforms

<http://www.spacewar.com/news/milspace-comms-05zzzq.html>

### TERRADAILY

#### グローバルスターは災害復興向けの緊急通信システムを開発

#### - Globalstar Develops Emergency Communications System for Disaster Response

<http://www.terraily.com/news/disaster-management-05zzz.html>

Oct 06, 2005 Moscow, Russia (SPX)

#### ロシアはクリッパを仏領ギアナ・クールーから打上げるかもしれない

#### Russian May Launch Klipper From Kourou

The Russian Space Agency (RSA) may launch its new Kliper spacecraft from the Kuru space center in French Guiana, RSA Deputy Director Nikolai Moiseev said Wednesday, reports RIA Novosti. The plan while still on the drawing board, could involve



<http://www.space-travel.com/>

Russia's new reusable spacecraft Kliper, which was designed from the start to be an international spacecraft and, therefore be capable of being launched from different space centers throughout the world, Moiseev told RIA Novosti.

2005年10月9日 13:09

SpaceDaily Express - October 9-10, 2005

グローバルスターはコンスタレーションの代替衛星をソユーズで打上げる契約を結ぶ

### Globalstar Has Reaffirmed Its Confidence In Soyuz

Evry, France (SPX) Oct 09, 2005

Starsem announces today the signing with Globalstar LLC of a new contract for one firm launch of the Globalstar constellation's replacement satellites with an option for a second by Soyuz launch vehicles.

The firm launch is planned to take place in the first semester of 2007 from the Baikonur Cosmodrome in Kazakhstan. The launch period shall be finalized upon completion of all necessary governmental



approvals. The telecommunications satellites will be placed into a circular orbit, inclined at 52°, at 920 kilometers altitude.

The Globalstar constellation is designed to provide satellite voice and data services to its customers located around the world. Between February and November 1999, Starsem successfully launched twenty four Globalstar satellites, one half of the original constellation, using six Soyuz launch vehicles. (後略)

2005年10月9日 13:09

SpaceDaily Express - October 9-10, 2005

ロシアは地球に貨物を戻す装置の打上げに成功

### Russia Successfully Launches Apparatus To Return Cargo To Earth

Moscow (AFP) Oct 07, 2005

Russia has successfully launched a space apparatus that would be used to bring useful cargo back from orbit to Earth, the defense ministry was quoted by the ITAR-TASS news agency as saying early Friday.

The Demonstrator-2P machine, made in Russia by contract with the European Space Agency, was launched at 1:30 am (2130 GMT) off a nuclear-powered submarine in the northern Barents Sea and safely



landed on Kamchatka half an hour later, the ministry said.

"It is expected that in the future it will bring cargo weighing up to several tonnes back from orbit," the machine's constructors said. (後略)

[Inflatable Re-entry and Descent Technology \(IRDT\) demonstrator](#)

欧州 Cryosat はロシア打上げ機の事故で失われる

- Europe's Cryosat Lost After Russian Launch Failure

<http://www.spacedaily.com/news/eo-05zzzzzf.html>

European Ice Satellite Lost By Rocket Launcher

Moscow (AFP) Oct 08, 2005

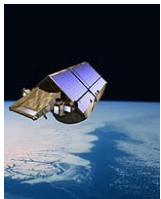
A European satellite that was to have helped understand global warming by scanning the thickness of polar ice sheets crashed into the Arctic Ocean on Saturday after its Russian launcher failed, officials said.

The 140-million-euro (170-million-dollar) **CryoSat** satellite blasted off from Russia's northwestern Plesetsk cosmodrome atop a Russian-built Rockot launch vehicle but failed to achieve orbit.

"The satellite did not go into orbit because of a dysfunction in the

final stage ... of the Rockot launcher," Vyacheslav Davidenko, spokesman for the Russian Space Agency was quoted as saying by Interfax.

"We suppose that the satellite with its booster fell at the site intended for that purpose, into the Lincoln Sea, near the North Pole," Lieutenant General Oleg Gromov, deputy commander of the Russian Space Forces, was quoted as saying by ITAR-TASS news agency. (後略)



Cryosat was to be a major EO program to study and monitor polar ice.

冷たい天候は神舟の打上げを遅らせるかもしれない

- Cold Weather May Delay Shenzhou

<http://www.sinodaily.com/news/china-05zzzzzzzi.html>

Cold Weather May Force China To Postpone Manned Space Mission: Report

Beijing (AFP) Oct 07, 2005

Unusually cold weather may force China to postpone the launch of its second manned space mission, scheduled for next week, state media reported Friday.

The launch of the Shenzhou VI spacecraft from the Jiuquan Satellite Launch Center on the edge of the Gobi desert has been tentatively set for some time between Wednesday and Friday, the Modern Bulletin

newspaper said.

However, during those three days a cold current will be affecting the area, the paper said, citing Yao Bing, deputy meteorologist at the Jiuquan center.

"We're not very optimistic about the weather during the launch period that was set initially," he told the paper. (後略)



神舟の商業化の時期

## - Commercial Time For Shenzhou

<http://www.spacedaily.com/news/china-05zzzzzzzc.html>

by Morris Jones

Sydney, Australia (SPX) Oct 06, 2005

The balance of power in human spaceflight is shifting. China is gradually emerging as a credible third force in putting humans in orbit, as the USA struggles to define its near-term future as a spaceflight power.



Technicians make final examinations and tests of China's second manned spaceship Shenzhou VI at Jiuquan satellite launch center in Gansu Province. Photo source: Xinhua News Agency.

But another power shift has occurred internally within the Chinese human spaceflight program itself. Commercialism is appearing as a major factor for financing and justifying the existence of the Shenzhou program. (後略)

2005年10月9日 13:09

SpaceDaily Express - October 9-10, 2005

英の諜報レポートに核のスーパー・マーケットの規模が示される

### - British Intelligence Report Shows Scale Of 'Nuclear Supermarket'

<http://www.spacewar.com/news/nuclear-blackmarket-05zw.html>

London (AFP) Oct 08, 2005

British intelligence has identified more than 350 companies, university departments and government organisations in eight countries seeking to acquire technology or materials for weapons of mass destruction, a report said Saturday.

The confidential report by security service MI5 revealed the scale of the global "arms trade supermarket", The Guardian said.

The document, which identifies the Pakistani embassy in London



Available in various sizes and yields directly off the shelf or as a custom job.

among organisations seeking nuclear materials or information, was produced to try and prevent British firms inadvertently aiding weapons proliferation.

Titled "Companies and Organisations of Proliferation Concern", it warns against exports to groups in Iran, Pakistan, India, Israel, Syria and Egypt, as well as counselling about front companies in the United Arab Emirates, which appears to be a hub for the trade. (後略)

2005年10月9日 13:09

SpaceDaily Express - October 9-10, 2005

インテリジェント・ロボットは宇宙探査の大きな部分になる見込み

### - Intelligent Robots To Be A Larger Part Of Space Exploration

<http://www.space-travel.com/news/materials-05zt.html>

2005年10月10日 7:34

This Week's SatNews

<http://www.satnews.com/>

JSAT はロッキードマーチンと3番目の A2100 衛星の契約を結ぶ

… JSAT Awards Lockheed Martin Contract for Third A2100 Satellite

アルカテル・アレニア・スペースは Amos-3 のペイロードを供給予定

… Alcatel Alenia Space to Supply Payload for Amos-3 Satellite

ロッキードの開発したブースト・ビークル・プラス計画は ATK ORBUS 1A の初期品質検証を完了

… Lockheed-Developed Boost Vehicle-Plus Program Completes Initial Qualification of ATK ORBUS 1A

Telesat's Anik F1R 衛星は商用サービスを開始

… Telesat's Anik F1R Satellite Begins Commercial Service

米空軍は低コスト・ロケットのプロトタイプの下投に成功

… Air Force Successfully Drops Prototype of Low-Cost Rocket

ISRO はレーダ・イメージング衛星システムを開発予定

… ISRO to Develop Radar Imaging Satellite System

デジタルグローブはさらに多くの撮像衛星, ワールドビューI とワールドビューII を計画

… DigitalGlobe Plans 2 More Imaging Satellites, WorldView I and WorldView II

According to DigitalGlobe, WorldView I, combined with QuickBird, will enable DigitalGlobe to have the two highest resolution commercial imaging satellites on-orbit for at least a year before any comparable system is launched. By 2008, DigitalGlobe's constellation of high-resolution satellites will be unprecedented in the commercial satellite imaging industry, enabling commercial and government customers around the globe to access a broad selection of geospatial information products from a single source.

**WorldView I**, scheduled to **launch no later than 2006**, will be the most agile satellite ever flown commercially. The high-capacity, **panchromatic** imaging system features **half-meter resolution** imagery. With an average revisit time of 1.7 days and a swath width of 16 kilometers, **WorldView I** will be capable of collecting up to 500,000 square kilometers (200,000 sq. mi.) per day of **half-meter** imagery. **WorldView I** will also be capable of directly downlinking imagery to customer locations. The satellite will be equipped with state-of-the-art

geo-location accuracy capability and will exhibit stunning agility with rapid targeting and efficient in-track stereo collection.

**WorldView II** is planned to **launch no later than 2008**. Operating at an altitude of 770 kilometers, WorldView II will enable DigitalGlobe to offer **half-meter panchromatic** resolution and 1.8-meter **multispectral** resolution. The WorldView II system will allow DigitalGlobe to substantially expand its imagery product offerings to both commercial and international customers with a more commercially desirable, higher performance product.

Added spectral diversity will provide the ability to perform precise change detection and mapping. **WorldView II** will incorporate the industry standard four multispectral bands (red, blue, green and near-infrared) and will also include four new bands (coastal, yellow, red edge, and near-infrared 2). The highly agile **WorldView II** will be capable of directly downlinking imagery to customer locations and will also have direct tasking capabilities.



DigitalGlobe's QuickBird high-resolution remote sensing satellite. Two more imaging satellite are being planned by DigitalGlobe.

<http://www.satnews.com/frames.html>

[同報] : <http://www.astroexpo.com/news/newsdetail.asp?ID=22045&ListType=TopNews&StartDate=10/3/2005&EndDate=10/7/2005>

ノースロップは新しいミサイル警戒衛星のペイロードの最初のハード、ソフト統合を完了

… Northrop Completes First Hardware and Software Integration of Payload for New Missile Warning Satellite



AZUSA, Calif., Oct. 4, 2005/Satnews Daily/ — Northrop Grumman Corp. (NYSE: NOC) has announced the completion of mechanical and electrical integration work for a key element of the nation's next-generation missile warning system, the payload for the first Space-Based Infrared System (**SBIRS**) geosynchronous-orbit satellite. Northrop said it will provide the payload to Lockheed Martin (NYSE: LMT), the prime contractor and systems integrator for **SBIRS**.

Electrical integration of the geosynchronous orbit (**GEO-1**) payload at Northrop's space systems facility in Azusa was followed by the integration of 100,000 lines of prototype flight software into the payload hardware. Following the hardware and software integration, the payload was successfully powered on, initialized and calibrated. Northrop said the payload subsequently completed an ambient functional test, which demonstrated critical payload functions including command and telemetry, infrared data connectivity to the on-board signal processing assembly, internal data bus messaging, scanner and starrer mission modes, and downlink interfaces. The ambient functional test included execution of 19 separate test procedures, which enabled the checkout of the payload test equipment and payload test software.

"Completion of the ambient functional test activity in only two months will enable the **GEO-1 satellite payload test program** to move forward to the engineering thermal vacuum test phase," said Sal Romano, vice president of the **SBIRS High** program at Northrop Grumman's Electronic Systems sector. "In that phase, these functional tests as well as radiometric tests will be repeated in a test-it-like-it-flies environment with the infrared sensors at their cryogenic operating temperatures."

The company's **SBIRS High GEO-1 payload** features separate <http://www.satnews.com/frames.html>

scanning and staring sensors. The scanning sensor is designed for continuous observation and surveillance of traditional intercontinental ballistic missile threats, while the staring sensor is designed to detect very low signature, short-burn-duration theatre missiles. The staring sensor recently completed its flight-acceptance test. Analysis of the test data showed that the staring sensor outperformed contractual requirements.

When fully operational, **SBIRS High** will comprise two payloads in highly elliptical orbit, four satellites in geosynchronous orbit, as well as fixed and mobile ground-based assets to receive and process the infrared data. The team has delivered both **HEO payloads** and is on track to begin final integration and test later this year in preparation for launch aboard an Evolved Expendable Launch Vehicle in fiscal year 2008.

**SBIRS High** already is providing the nation enhanced worldwide missile-detection and tracking capabilities, battlefield data, and technical intelligence through its consolidated ground segment operations at Air Force Space Command, Buckley Air Force Base, Colo. Northrop Grumman's Electronic Systems sector is providing the infrared payload, electronics and ground processing for the mission data processor as part of the Lockheed Martin Corporation-led **SBIRS High** team. The U.S. Air Force Space and Missile Systems Center manages the **SBIRS High** program, with Air Force Space Command responsible for the operation of the **SBIRS** system.

---

**Aerospace Daily & Defense Report Oct 10, 2005**

**AFRL 米空軍研究所は超音速ビークル研究で BAA 広域省庁声明を発表予定**

**AFRL to release BAA for trans-atmospheric hypersonic vehicle research**

GLOBAL REACH: In late October the Air Force Research Laboratory plans to release a **broad agency announcement** calling

for research proposals on trans-atmospheric hypersonic vehicles capable of . . .

**F/A-22 戦闘機の最初の仮配備が近づく**

**F/A-22 nears first practice deployment**

RAPTOR 'DEPLOYMENT': The U.S. Air Force is gearing up to

conduct the first practice deployment of the Lockheed Martin F/A-22

Raptor. Langley Air Force Base, Va., where ...

米海軍は SUMO 軌道汎用変換衛星プログラムのインダストリ・デイを 11 月 2 日に開催予定

#### Navy to hold industry day on SUMO program Nov. 2

SUMO: The Navy will hold an industry day to discuss the **SUMO** (Spacecraft for the Universal Modification of Orbits) program on

Nov. 2 at the Naval Research ...

EADS と DRS は米陸軍の障害物回避システムとして Hellas を提供

#### EADS, DRS offer Hellas as Army obstacle-avoidance system

ARMY REQUEST: EADS and DRS Technologies have offered EADS' Hellas obstacle warning system to the U.S. Army, which is

seeking a cable warning/obstacle avoidance capability for the

再開した Michoud の組立施設にてシャトルの外部タンクの改修を行なっている

#### Shuttle's external tank undergoing retrofit work at reopened Michoud

NEW TANK: The external tank that will fly with Space Shuttle Discovery on its next launch is now undergoing additional retrofitting

at the recently reopened Michoud Assembly ...

JSTARS 機がハリケーンで損傷、飛行できる状態になかったため退避できなかった由、ノースロップグラマン

#### Joint STARS planes damaged in hurricane, contractor says

A U.S. Air Force E-8C Joint Surveillance Target Attack Radar System (Joint STARS) aircraft sustained "moderate damage" late last month

when Hurricane Rita's winds struck the hangar

FY'05 には米国の防衛出費は 7.6%増加

#### Defense spending grew by 7.6% in FY '05

DEFENSE OUTLAYS: Outlays for defense spending grew by an estimated 7.6% in fiscal 2005 to \$474 billion, although the growth

was half the rate of increase averaged ...

051006 NASA

シャトル・エンデバー生き返る

[http://www.nasa.gov/mission\\_pages/shuttle/main/index.html](http://www.nasa.gov/mission_pages/shuttle/main/index.html)

#### Shuttle Endeavour Comes to Life

Engineers cheered Oct. 6 as electricity coursed through space shuttle Endeavour for the first time in two years. The powering of Endeavour signaled the end of the orbiter's major modification period at NASA's Kennedy Space Center, Fla.

"Having three operational vehicles in the fleet affords the shuttle program great schedule flexibility, as we move toward flying safely and completing the international space station," said Space Shuttle Program Manager Wayne Hale.



image above: At NASA's Kennedy Space Center, technician Charles Bell monitors a display in space shuttle Endeavour's cockpit. Image credit: NASA/KSC

04 October 2005 JDW, Jane's Defence Weekly

イランは衛星を製造所有する国々のクラブに入口にとどまる

### Iran remains on cusp of entering satellite club

By Alon Ben-David JDW Correspondent Tel Aviv

The launch into space of Iran's first satellites - reconnaissance satellite **Mesbah (Lantern)** and research satellite Sina-1 - has been postponed from the scheduled date of 30 September due to a malfunction in the Sina-1 satellite.

The press chief of the Russian Space Troops, Colonel Alexei Kuznetsov, told the Itar-Tass news agency that the launch was postponed because of a delay in the manufacture of the Sina-1, which was assembled by Polyot of Omsk.

However, when the launch does go ahead in the coming weeks, it will make Iran the 43rd country to possess its own satellites and a member of the much more exclusive club of countries with spy satellites.

Iran unveiled its military space programme in 1998, when the then defence minister Admiral Ali Shamkhani declared that the future

design of Iran's intermediate-range ballistic missile (**IRBM**), the **Shahab 4**, would be capable of launching payloads into orbit. Iranian television presented a mock-up of a future satellite launch vehicle, dubbed IRIS, which appeared to be a three-stage, constant-diameter launcher based on the Iranian **Shahab 3** and North Korean No-dong **IRBMs**.

Since then, Iran is believed to have abandoned its **Shahab 4** programme and instead presented and tested in August 2004 a new **Shahab 3** design with a greater range capability.

### [国際関係・一般]

対中事業日欧受注競争 高速道路、航空機、原発施設 中国側は技術移転要請 政治力が影響も

日本経済新聞 05年10月08日 朝刊 9面 4段 図表 0605

### [宇宙・航空・科学]

SST開発へJAXA再挑戦 10日に無人機飛行実験 3年ぶり

産経新聞 05年10月08日 朝刊 28面 2段 0828

### [宇宙利用・宇宙からの観測・宇宙環境利用・宇宙実験]

## [防災・環境・資源・エネルギー]

---

東北大など新見解 1930年代の宮城県沖地震 3回に分かれ発生

日本経済新聞 05年10月08日 朝刊 38面 2段 0698

---

## [技術・産業]

---

ボーイングなどナノテク研究

日本経済新聞 05年10月08日 朝刊 7面 1段 0597

三菱重工、医療機器事業に参入

朝日新聞 05年10月08日 朝刊 13面 1段 0257

---

## [通信・放送・IT]

---

「シーテックジャパン」きょう閉幕 次世代放送実用化段階に ハイテク加速 自動運転も視野

産経新聞 05年10月08日 朝刊 10面 7段 写 0791

JSAT 2006年3月期連結業績予想 通信衛星不具合で赤字95億円に修正

河北新報 05年10月07日 朝刊 10面 1段 1096

TBSも番組ネット配信 来月開始「ドラマ全編」など検討

読売新聞 05年10月08日 朝刊 2面 3段 0331

---

## [経営・人]

---

エアバスCEO 新中型機、年内200機受注 「来年、補助金受けず」

日本経済新聞 05年10月08日 朝刊 7面 3段 写 0592

スカイマークエアラインズ鹿児島路線 就航3年、撤退方針 「出資したのに」地元反発

北海道新聞 05年10月07日 朝刊 13面 3段 1059

---

## [航空輸送・エアライン]

---

全日空機引返す エンジン油圧異常表示

読売新聞 05年10月08日 朝刊 38面 1段 0417

成田・2日連続トラブル 空調異常、エアカナダ機引返す

毎日新聞 05年10月08日 朝刊 31面 2段 0526

関空発カナダ機、2日続けトラブル 怒った客100人搭乗「やめた」

朝日新聞 05年10月08日 朝刊 38面 4段 0288

---

## [ex-SJAC 三輪さんの欄]

---

Oct. 6- Financial Times

**WTO 史上最大の訴訟案件に発展しそうな気配**

A350 開発ローンチを受けて米国側 WTO への提訴本格的論陣を構える

**Aircraft Subsidies Dispute Deepens**

Financial Times, Oct. 6- The transatlantic trade dispute over aircraft subsidies deepened on Thursday after the US dismissed an olive branch from the European Union aimed at restarting negotiations over state aid to Airbus and Boeing. The US move came after EADS, the 80 per cent owner of the European aircraft maker, gave the go-ahead for Airbus to build its planned A350 long-range aircraft to compete with the Boeing 787 Dreamliner. But EADS said it would postpone

drawing down any state aid in an effort to restart negotiations with the US. A spokesperson for Peter Mandelson, the European trade commissioner, said the EADS move would help "a possible negotiation in the dispute with Boeing, which we would welcome". But within hours of the European overture, the US said it would continue legal action against the EU at the World Trade Organisation. The two are embroiled in the biggest dispute yet brought to the WTO.

**[オールドタイム]** 33年前の三輪さんの職場、 WTC World Trade Center があった頃



1972 WTC



**[オールドタイム]** 28年前の航空ジャーナル、LM でなくて、GD の F-16

